

## 共同研究奨励金グループ活動報告 (2002 - 2003 年度)

### 環東シナ海伝承文化の総合的研究

#### I 環東シナ海伝承文化の総合的研究

#### II 共同研究メンバー

大里浩秋, 河野通明, 鈴木陽一, 佐野賢治, 孫安石, 中島三千男, 廣田律子, 福田アジオ, 彭国躍, 山口建治

#### III 研究目的

人文学研究所の共同研究グループ「東アジア比較文化研究会」は、これまで日本・中国・朝鮮の文化を比較し、相互の影響関係やそれぞれの独自性を検討する作業を行ってきた。本研究は、この共同研究を基盤にしつつ、東シナ海をとりかこむ日本・中国・朝鮮・臺灣の環東シナ海の伝承文化を総合的に研究することを目的とする。

東シナ海沿海の各地域はそれぞれ固有の伝統文化を育んできたが、同時に共通する側面もまた少なくない。古来、様々な人々がこの海域を縦横に行き交い、交流・接触が行われてきたからである。今回の共同研究では、この海域沿岸部の人々の暮らしと伝承文化を調査し、その交流・接触の様相・形跡を洗い出すことに努める。共同研究メンバーの専門分野を考慮し、今回の中心課題は1, 生業とその用具, 2, 祭りと芸能, 3, 神話と民話の3領域とする。

#### IV 今年度の活動内容

今年度はアジア各地で発生した新型肺炎 (SARS) の影響で殆どの研究調査を実施することができなかった。そのために共同研究奨励金の予算は、環東シナ海の諸地域 (天津, 青島, 上海など) で発行された新聞資料の収集と購入に当てられた。歴史学や民俗学において現地での生の資料に接することが大事であることは言うまでもないが、今回購入した資料の多くは20世紀前半に発行された新聞資料である点、多くの分野で活用されることを期待したい。共同研究メンバー個人による調査としては山口・孫の調査が実施された。

### ■ 山口建治

#### (1) 2002年9月14日～15日 第5回全国獅子舞シンポジウム in 札幌に参加

今回のシンポジウムには富山県砺波市鷹栖の獅子舞保存会が大挙して参加、その重厚勇壮な舞が披露された。翌日、札幌市内の丘珠神社秋季例祭で、獅子舞を見学。明治の中頃砺波地方の獅子舞がこの地に伝えられたものという。昨日のシンポジウムで披露された鷹栖の獅子舞と比較することができた。いずれも多数立ちで、木製の獅子頭は10キロ近くの重量があり、勇壮な獅子舞であった。

#### (2) 2003年1月4日～7日 丹後半島調査

若狭湾をかこむ丹後半島の与謝郡伊根町には浦島伝説発祥地の宇良 (浦島) 神社と徐福渡来伝承地である新井崎神社があり、一度訪ねてみたいと思っていた所。同町には海洋民特有の家屋がある「舟屋の里」としても有名な伊根漁港がある。新井崎から伊根漁港まで海沿いに約一時間歩き、海を生活の根拠にした人々の間でこそ、浦島や徐福の伝承がおこりえたのだと実感した。帰路、大江町にある「日本の鬼の交流博物館」見学した。鬼にかかわる資料がかなりよく纏められていた。

## ■ 孫安石

### (1) 2003年11月28日～30日 上海市／徐家匯藏書樓の資料調査

今回の調査の目的は昨年度の新型コロナウイルスの影響でしばらくの間連絡がとれずにいた中国の研究者と連絡を再開することと、上海市図書館の分館にあたる徐家匯藏書樓の資料状況を確認することであった。今回の上海訪問では上海社会科学院と復旦大学、そして、華東師範大学の諸研究者と今後の共同研究活動について打合せをすることができた。上海市図書館分館の徐家匯藏書樓は、亜州文会図書館(The Royal Asiatic Society North China Branch) 徐家匯天主教藏書樓(Library Bibliotheca Major Zi—Ka—Wei)、共同租界の工部局図書館(The Municipal Library)の旧図書を所蔵するほか、19世紀末—20世紀初頭に上海で発行された多くの英字新聞の原紙を保管している。最近と同蔵書樓が所蔵する日本語関連の図書目録(上海図書館編『上海図書館館蔵旧版日本文献総目』上海科学技術文献出版社、2001年)が刊行され、日本でも注目を浴びている。今後、同蔵書樓が所蔵する資料を駆使した研究成果が発表できるように準備を急ぎたい。

(孫安石)

## 東アジアにおける近代探偵小説の誕生

### 1. 構成員

鈴木陽一・岩本典子・大里浩秋・大林弘道・加藤宏紀・孫安石・寺沢正晴・富井正憲・日高昭二・山口ヨシ子・横倉節夫・吉井蒼夫生

### 2. 目的

19世紀後半に、欧米で生まれた探偵小説はほどなくアジアに輸入され、短期間のうちに翻訳、翻案され急速に読者層を拡大していった。それは、探偵小説の成立とアジアへの移入が、アジアにおける近代化、欧米化の時期と重なっていたためであり、最も新しい娯楽文化としての探偵小説が受け入れられる土壌がアジアの都市部で整っていったからに他ならない。やがて、翻訳、翻案から、模倣、創作へと移っていくにはそれほどの時間を要せず、こと探偵小説に関する限り、1920年代には、欧米とほとんどタイムラグがなくなっていた。

こうした状況から、我々の研究グループでは、探偵小説のアジアにおける成立の歴史を、社会の近代化、欧米化の指標ととらえ、その歴史を通じて、アジアにおける近代化の意味を問おうとするものである。

### 3. 2003年度の研究経過

6月に研究会を開催し、今後の研究の進め方についておおよその方向を確認しあった。その後、8月に韓国の都市の調査、上海、蘇州における資料調査と聴き取りを行った。特に、蘇州では、元学特任教授嚴明氏(現蘇州大学教授)、上海師範大学潘建国教授の協力の下、1920年代から50年代に活躍した探偵小説作家程小青氏の旧居を訪問し、子孫の方から貴重な証言を聴くことができた。更に、年度内に横浜・東京での資料調査を行う予定である。

### 4. 資料の収集

現在、日本と中国で出版されている戦前の探偵小説の作品集、或いはこれに関する論文、評論を收拾している。また、可能なものについては、当時の雑誌のコピーなども收拾し始めており、これらを人文学研究所の書庫に集め、広く利用に供している。

(2004年1月)